

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 奈良市立田原小学校 田原中学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 630 - 2174

奈良市横田町199-1

E-mail tawara-e@naracity.ed.jp tawara-j@naracity.ed.jp

Website www.naracity.ed.jp/tawara-j/

幼児児童生徒数 男子 35名 女子 27名 合計 65名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳 ~ 15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

小中一貫校の本校では「9年間の連続性・系統性を生かした一貫教育を行い、豊かな心をと確かな学力を身につけた世界に羽ばたく人間を育成する」を教育目標としている。本校では、ESDを過疎化が進む自分たちが暮らす地域やそこにある課題について多面的・多角的に考察し、持続可能な地域社会を創造していくことと捉え、ESDの実践を通して、未来像を予測して計画を立てる力、コミュニケーションを行う力、他者と協力する態度等の育成を目標とした。

具体的には、キャリア教育、地域学習、国際理解、防災教育を柱に①地域理解に関わる学習活動②地域活性化に関わる学習活動③国際理解を促す学習活動④防災教育に関わる学習活動を行った。

### ① 地域理解に係わる学習活動

本校は山間部に位置し、お茶やお米、野菜の生産が活発な農村地帯である。生産者の方々に、ゲストティーチャーとして、地域の気候的特色や生産活動における喜びや苦労などのお話を直接していただいている。また、数多くの体験活動を実施し、児童生徒の理解を促している。

## ② 地域活性化に関わる学習活動

昨年度より、ESDの観点から、地域を活性化するために自分たちにできることは何かを考え、計画、実行している。今年度は地域の魅力を伝えるリーフレットづくりに取り組んだ。地域の方のお話を聞いたり、実際に体験をしたり、ICTを活用してまとめたり、デザイナーの方に協力をお願いしたりと様々な苦勞を経て完成させた。完成させたものは実際に奈良市内の店舗にも置いてもらう。

## ③ 国際理解を促すに学習活動

世界遺産学習を中心に、国際理解教育を実施した。五感で感じることを大切にするため、奈良の世界遺産や京都の世界遺産については遠足等を利用して現地学習を実施できた。また、奈良市の姉妹都市である中国の慶州市から慶州女子中学校をお招きし、異文化交流ができた。

## ④ 防災教育に関わる学習活動

児童生徒会執行部が中心となり、全校児童生徒が参加する防災集会を実施した。予告なしの避難訓練や防災クイズ、身近なものでできる防寒グッズ作りなどの活動を行った。

① の写真（田植え体験）



② の写真（リーフレットづくり）



③ の写真（慶州女子との交流）



④ の写真（防災集会）



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間や特別活動の時間を中心に、1～9年生（小1～中3）の発達段階に応じてESDに関わる教育活動を実施している。「持続可能な社会づくりの担い手を育む」というESDの理念と本校が置かれている地域的特色は深くかかわることが多く、継続して実施している様子がある。

しかしながら、ユネスコスクールであるということを自覚はうすく、本校がユネスコスクールであるということを全教員が理解している現状にない。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

②にも書いたが、ESDの理念は学校教育に自然と取り入れられている。小中一貫教育校であるため各教科の9年間の継続的な取り組みもある。

その中でも特に、総合「なら」を軸に据えて学習活動をし、総合「なら」担当者が中心となり、各学年のつながりを意識した計画を立て、各学年に応じた内容を実施している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

児童生徒、教員、保護者を対象にアンケートを毎年行っている。そこでは地域と密着した学習活動について良い評価をいただいている。学校と地域連携がより一層取れてきていることが大きな成果だといえる。

課題としては、体験活動や交流活動、現地活動を実施していく上での必要経費（バス代など）をどのように負担していくか、授業数確保との兼ね合い、総合担当が転勤等したときの引継ぎなどが挙げられている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

京都府や広島県の同規模の小中一貫教育校や環境の異なる奈良市内の学校など、他校との交流を盛んに行い、学習の成果を発表している。他地域から見る自分たちの地域をより認識し、多面的・多角的に自分たちの地域をとらえることにつながっている。また、プレゼン能力の向上にもつながっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校はコミュニティスクールでもあり、地域の方々は日常的に学校教育に関わってくれている。また、地域活性化に関わる学習の際には、実際に奈良を活性化するための仕事をされている方やデザイナーの方など多くの大人との協働、交流があり、学校外でのネットワークが形成されてきている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

⑤と同様、同市内や他府県、海外の学校との交流は活発に行われている。しかし、ユネスコスクールとしてという意識はあまり持っていない、相手校がすべてユネスコスクールかどうか分からない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

ESDにかかわる（ESDを意識する）教育活動を取り入れることで、児童生徒が当事者意識を持ちやすくなるし、教員も体験活動などの教育活動の目的などが理解しやすくなったようである。地域に根差したESDを実践しようとするると必然的に地域との連携は増え、学校教育への保護者の理解も進んでいるように感じている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今年度と同様の活動内容を計画している。地域学習や地域活性化に関する学習、世界遺産学習、海外の学校との交流、防災に関わる学習を児童生徒の実態に応じて行う予定。

地域活性化に関する学習では、来年度初めて奈良市内の学校に出向き、交流活動やその地域のお祭りに参加し、28年度に作成した商品の販売や29年度に作成したリーフレットの配布を予定している。

また、中学生では奈良先端科学技術大学院大学の見学を行い、社会の諸課題を解決しようと前向きに取り組む最前線の研究を体験する活動を計画している。